

第3回向日市中学校給食検討委員会 会議録

日 時	平成28年1月29日（金）午後3時～5時
場 所	向日市役所大1会議室
出席委員	大谷委員長、縄手委員、長坂委員、西森委員、森崎委員、西山委員、岩野委員、野田委員、今西委員
欠席委員	藤井副委員長、富田委員、寺井委員、宮前委員
事 務 局	永野教育長、吉田学校教育課長、小畑学校教育課担当課長、奥村学校教育課担当課長、浦元教育総務課長、片山教育総務課課長補佐
内 容	1 先進地視察報告について 2 アンケート調査結果について 3 昼食の在り方及び給食の方式等について
傍 聴 者	12名
事務局	○会議録の承認
委員長	○教育長挨拶 開会
委員長	○会議の成立
事務局	○傍聴者入場
委員長	○内容1 先進地視察報告について 事務局から報告願う。
事務局	昨年の11月に実施した先進地視察には、11名の委員に参加をいただき、実施方式の異なる4つの中学校で、給食施設や運営方法、給食時間の様子などの見学と給食の試食を行った。それぞれの詳細については、委員である教育委員会の栄養士から報告する。
委員	視察先は、デリバリー方式の舞鶴市立和田中学校、自校方式の箕面市立第三中学校、センター方式の木津川市立加茂給食センター及び木津川市立泉川中学校、親子方式の高槻市立北清水小学校及び第九中学校の4つの中学校で

実施した。

はじめに、デリバリー方式の舞鶴市立和田中学校について報告する。

平成27年11月5日（木）に委員3名が参加して実施した。

舞鶴市では、成長期にある中学生の心身の健全な発達と望ましい食習慣の形成のため、全生徒を対象にスクールランチ方式（民間の調理場で調理し、弁当箱に詰めて学校に配食する方法）による給食を実施されている。また、食育を進める上で、全員喫食とされている。

給食は、学校毎の配送車で学校の配膳室まで運ばれる。学校の配膳室では、生徒が運搬しやすいように、給食をクラス毎にかごに分け、棚に並べられる。そのため、配膳室には配膳員が配置されている。牛乳は、学校に直接納入され、配膳室の保冷庫で保管されている。また、ごはんは、おかわりできるようにおひつに入れて用意されている。弁当箱に入った給食であるため、生徒はエプロンを付けずに給食を教室まで運搬している。給食の導入当初は、昼食時間を10分延長されていたが、現在は戻っている。

次に、自校方式の箕面市立第三中学校について報告をする。

平成27年11月6日（金）に委員4名が参加して実施した。

自校方式は、他の方式と比べて「食べる直前まで調理でき、適温でおいしく食べられる」「食物アレルギーへの対応に最も優れている」「各校に給食室があることで、食育の生きた教材として活用できる」などの面に優れており、箕面市では、これらのメリットを最大限に生かした中学校給食を展開されている。

第三中学校では、学校敷地内に給食室とリフトが新築され、各階には配膳室がある。リフトで上げた給食を調理員が配膳台に寄せ、生徒が教室まで運搬することで配膳時間の短縮が図れている。生徒は自前のエプロンと三角巾を着用して配膳を行っていた。給食の導入にあたり、昼食時間は10分延長された。

次に、センター方式の木津川市立加茂給食センターと泉川中学校について報告する。

平成27年11月18日（水）に委員3名が参加し実施した。

木津川市は、平成19年に木津町、山城町及び加茂町の3町が合併して発足した市であり、木津町と山城町では合併以前からセンター方式による中学校給食が実施されており、加茂町では中学校給食が実施されていなかったが、平成22年4月に加茂給食センターが開設されたことにより、泉川中学校で給食が実施されることとなった。

給食センターで作られた給食はコンテナに入れられて、泉川中学校の配膳室まで運ばれる。加茂給食センターでは市内の5つの小学校と1つの中学校の給食を調理しており、3台の配送車でそれぞれの学校に配送される。配膳室では生徒が使いやすいように、入室を一方通行としており、また、出口側のドアを両開きにするなどの改修がされていた。生徒は学校で用意した白衣を使用し、給食当番は週末に持ち帰り洗濯する。給食の導入にあたり、昼食

	時間は10分延長された。 最後に、親子方式の高槻市立北清水小学校及び第九中学校について報告する。 平成27年11月25日（水）に委員9名が参加し実施した。 高槻市では、親子方式を基本として、全中学校での実施に向けて平成24年度から市内2中学校での試行を経て、平成26年度から全中学校で中学校給食が実施された。実施方式は、小学校の施設を有効活用して中学校分の調理を行う親子方式と、中学校に給食調理場を建設し、他の中学校へ配送する兄弟方式の両方式がある。 北清水小学校は、開校当時は1,100人以上あった児童数が現在では400人程度に減少したため、小学校の給食室を増築して、小学校分と中学校分を調理している。 第九中学校分では、北清水小学校から2・3学年分の給食が、また安岡寺小学校から1学年分の給食がそれぞれ配送されてくる。給食を運ぶコンテナは2クラス分が入るコンテナが利用されており、また、中学校の配膳室には、配膳員が2名配置されている。生徒は、自前のエプロンを付けて給食当番として配膳等を行う。給食の導入にあたり、昼食時間は10分延長された。
委員長	何か印象等あれば、お願いしたい。この印象が向日市の給食に繋がっていくと思うので、忌憚のない意見をどうぞ。
委員	センター方式と親子方式を視察したが、どちらも1階の配膳室から運ぶという方法であった。配膳等の準備に時間がかかるのではと予想していたが、思っていた以上に準備が早くできていたので驚いた。この会議でも、準備時間の課題について議論されていたが、慣れてくると小学校よりも早くできるようになることや食事の時間も早いと視察先の先生から伺った。準備や片付けにそれほど時間はかからないとの印象を受けた。
委員	配膳や食事の様子は穏やかでスムーズであったが、残食が気になった。女子生徒は盛られたものを返していたし、牛乳も残っていて、それが気になった。
委員長	食べている子と食べていない子の差が大きいと、以前の視察で思った。給食を食育としてとらえるならば、指導をしっかりとってはいけないと感じた。
委員	親子方式と自校方式を視察した。配膳などが心配であったが、落ち着いたよい雰囲気では給食が実施されていた。自校方式の学校では、リフトがあり、教室からも近く、手洗い場も教室の近くにあるなどの設備環境の条件が整えられていた。また、残量のことや、早く食べた生徒が教室からすぐに出てい

	くなどゆっくり食べる時間がないという印象がある。給食時間を確保することは大切である。
委員	親子方式に参加したが、給食の様子は楽しそうな雰囲気だった。視察先の校長先生のお話を聞いて、給食が始まって学校へ来られるようになった生徒がいるとか、毎日パンだけ持って来ていた生徒が数人いて、そんな生徒には給食が重要であると話されていたのが印象に残っている。
委員長	今回は、視察にご一緒できなかったが、昼食時間は１０分延長すれば何とかなる。慣れてくると準備や後片付けの時間はそんなにかからないので、時間の部分は心配しなくても良いと聞いている。ただ、エプロンをつけることなどは学校によって差があるが、衛生管理も食育の中身になるので、向日市の実施の際には、しっかり指導していただけたらと思う。 ○内容２ アンケート調査結果について
委員長	次の議題、アンケート調査結果について、事務局から報告願う。
事務局	アンケート調査の結果について、概要を報告する。 中学校で希望する昼食の形態として、児童・生徒では「家庭の弁当と弁当給食を選択できる昼食」が４割程度と一番多く、次に、「家庭の弁当」が多かった。保護者では「小学校のような給食」が過半数を超えており、次に「選択できる昼食」が続く。中学校の教職員では「家庭の弁当」が６割程度と一番多く、「選択できる昼食」が続いている。 「小学校のような給食」が良いとする主な理由としては、児童・生徒、保護者、教職員とも『温かい給食がよいから』『栄養バランスが考えられているから』の意見が多く、児童・生徒では『小学校の給食がおいしいから』の意見も多くあった。 「弁当給食」が良いとする主な理由としては、児童・生徒では『配膳・片付けが簡単だから』が一番多く、次に、『栄養バランスが考えられているから』『弁当を毎日持っていくのが面倒だから』が続いている。 保護者では『栄養バランスが考えられているから』『子どもの配膳時間が短くてすむから』『弁当を準備するのが大変だから』が多くなっている。 教職員では、『栄養バランスが考えられているから』が一番多く、次に、『保護者の負担の軽減につながるから』が続いている。 「家庭の弁当」が良いとする主な理由としては、児童・生徒では『自分の好きな物や食べる量を調整できるから』『自分の好きな物をいれてもらえるから』『弁当の方が好きだから』が多く、保護者では『弁当をつくってあげたいから』『その日の子どもの体調等に合わせて量を調整できるから』が多く、また教職員では『食物アレルギー対応が細やかにできるから』が一番多

く、次に、『子どもの体格にあった分量を準備できるから』となっており、生徒のことを思いやる意見が多くあった。

「選択できる昼食」が良いとする主な理由としては、児童では『弁当を毎日つくるのは家庭が大変だから』が一番多く、生徒では『献立表を見て、日にちごとに選ぶことができるから』が一番多くあり、両方とも過半数を超えていた。

保護者では『毎日弁当をつくる負担の軽減になるから』が一番多く、次に、『献立表を見て、日にちごとに選ぶことができるから』や『弁当給食も選べることで子どもの楽しみが広がるから』『弁当給食もあることで栄養バランスを補うことができるから』などの意見が多くあった。

教職員では『家庭の事情等に対応できるから』が一番多く、次に、『毎日弁当をつくる親の負担の軽減になるから』が続いている。

次に、中学校給食に期待することでは、児童・生徒では『温かい昼食』『栄養バランスの良さ』の意見が過半数を超えている。

保護者では『温かい昼食』『栄養バランスの良さ』の意見が過半数を超えており、次に、『食の安全性が確保されること』が続いている。

教職員では『栄養バランスの良さ』の次に『経済的に困難な家庭の支援』の意見が多くなっている。

次に、家庭の弁当の持参状況については、生徒・保護者ともに9割程度が『ほぼ毎日弁当を持ってきている（作っている）』となっている。

弁当を作っていない日がある主な理由としては、『子どもが弁当以外を希望するから』『作る時間がないから』の意見が多くあったが、4割程度の保護者は『弁当を作っていない日はない』と回答があった。

次に、弁当を持って来ない日の主な昼食については、『コンビニなどで買ったおにぎりやパン』が一番多く、次に、『校内販売のパン』が続いている。

弁当を持ってこない日の昼食代は、『401円～500円』が最も多くなっている。

朝食の摂取状況については、児童・生徒及び保護者ともに『ほぼ毎日食べている』の回答が9割程度あった。

また、朝食を食べない理由としては、児童・生徒及び保護者ともに『食べる時間がないから』が一番多く、次に、『食欲がないから』が続いている。

中学校教職員を対象とした中学校給食実施にあたっての課題としては、『給食費徴収等の困難が予想される』の意見が過半数を超えており、次に、『配膳・後片付けの時間により、学校での他の活動時間に影響がでる』『給食指導等の教職員の負担が増える』が続いている。

食育に対する考えについて、給食を通して生徒に伝えたいことでは、『1日3食を規則正しく食べること』が5割程度と一番多く、次に、『食べ物の栄養について学ぶこと』『食べ物を大切にし、生産者の方に感謝の心を持つこと』と続いている。

食育実施に効果があがる機会としては、『関連教科の授業』が7割程度と

	一番多く、次に、『特別活動』『給食の時間』と続いている。
委員長	向日市の中学校の昼食をどういった形態にするかということについて、とても大事なアンケート結果であると思う。また、向日市の小学校の給食は、非常に高い評価を得ていると改めて感じた。
委員	感想になるが、希望する昼食の形態で、児童・生徒が「家庭の弁当と弁当給食を選択できる昼食」の意見が一番多かったのは意外であった。このような結果になったのは、「選択できる昼食」がその日に選べるようなイメージがあったからなのか。その他の記入で『日によって選べるから』や『弁当を作れない日や忘れた日があったときに便利だから』などの意見から、直前に選ぶことができるから選択されたのだと感じる。子どもの選択理由で、『家族が大変だから』の意見が多くあったのは、嬉しい印象がある。
委員	希望する昼食の形態の結果が、児童・生徒と保護者で差があることに驚いた。児童・生徒は、小学校の給食がおいしいので、中学校でも給食を望む意見が多いのかと思っていたが、意外に少ないので驚いている。また、保護者では「小学校のような給食」を望んでおり、弁当を作るのが負担なのかと思った。中学生の保護者は、4割の保護者が「弁当を作っていない日はない」と答えているが、「小学校のような給食」を5割の保護者が望んでいるということは、弁当が負担になっているのかと感じた。
委員長	もしかしたら、家族が大変と思っていることが、子どもに届いているのかもしれない。事務局はアンケート結果について、どう考えているのか。
事務局	アンケートの結果からは、児童・生徒の多くが選んだ「選択できる昼食」をどう捉えるのか難しいと思っている。家族の負担もあるが、毎日でなくとも家庭の弁当を食べたいと読み取ると、多くの児童・生徒が「家庭の弁当」を希望していることになる。一方、「選択できる昼食」を家庭の弁当以外に給食も選びたい、と読み取った場合、「小学校のような給食」「弁当給食」と合わせて半分を超える児童・生徒が、給食の実施を希望していると、受け取れる。 一方保護者は、弁当をほぼ毎日作っている実態であるが、希望するのが「小学校のような給食」や「選択できる昼食」と、保護者の方が強く給食の実施を望まれている結果が、アンケートで出ている。児童生徒の「家庭の弁当」が良いという意見をどうくみ取るかが検討課題となる。
委員長	キーワードとして、温かい給食、栄養バランスのとれた給食が挙がってくる。委員からも意見をいただいたが、向日市の中学校の昼食の在り方ということで、形はこれから検討するが、学校給食を進めるということで次の議題

	に入ってよいか。 ○内容３ 昼食の在り方及び給食の方式等について
事務局	本検討委員会では、給食の実施に向けて、話を進めるという方向性が出たので、その実施方法について、全員喫食か選択制か、もしくは食缶に入った給食か弁当箱に入ったものかとか、あるいは実施方式について、自校・親子・センターとあるわけだが、委員のみなさまからもう少し踏み込んだ意見をいただきたい。
委員長	視察の様子も含めて、こういった方式が向日市に適しているかについて、委員の意見を伺いたい。
委員	選択制の昼食が児童生徒に多いということであるが、同じ教室内で弁当を食べる生徒と給食を食べる生徒が存在した場合、仲良く食べられるのか。食育の観点から、給食として同じものを食べる方が給食の意味があると感じる。もし、昼食が持って来られないから選択性の昼食ということであれば、それは給食の意義からはずれ、単なる昼食提供になり、本来の食育のねらいが全うできないと思う。視察に行った時も、給食を残していたりして、小学校のように完食する指導は難しい面もあるが、班毎に仲良く男子も女子も食べていて、やはり同じものを食べることで、苦手なものが食べられたり、話題が共通になったりして、一緒に全員が食べるのが大事だと感じた。
委員長	同時に同じものを食べることについていかがか。
委員	同じ教室内で、お弁当の生徒と給食の生徒がいることには違和感がある。親子方式しか見てないが、配膳して食べるという姿が楽しそうで、給食を思い浮かべるとあの姿になるので、全員が良いと思う。選択できる昼食が子ども達に多いのは、先ほどの意見のようにイメージがふくらみ、明日このおかずなら給食にしようとする自由なことを思っているようだが、方法論としてそんなことはできないと思う。中学生の保護者では、しんどいけれど３割以上がお弁当を作っても良いと思っておられるので、家庭の弁当を残すということでは、例えば月に一度お弁当の日があったりしたら、お弁当を通じてのコミュニケーションがとれるのではないかと思う。
委員	保護者のお弁当に差がある。半数以上は恵まれているかもしれないが、アンケートの人数だけではなく、そうでないことも考えるのが大事かと思う。 変な例になるが、大人の宴会でも、ばらばらのものを食べると話しにならない。子どもも同じものを食べることで、話題にできる。子ども同士の食育に関係する。小学校でいうと、今日の給食の意味を学びながら一緒に食べる

	ので、同じものを食べるのは大事だと思う。
委員長	給食というのは、食育教材でもある。自分がどんなものをどれくらい食べるかを学ぶところでもある。先ほどの話ではないが、衛生管理も含めて、一連の流れが食育だと思うので、みんなが同じものを同じように食べることは大切であり、その方向で進めたい。 次にその形式について、デリバリーにするのか、センターにするのか、親子にするのか、自校がお金がかかる訳だがどうするのか。視察報告で、木津川市は小学生が減ってきて、中学生が増えている。そんな地域特性を踏まえて、小学生が減ってきたので親子ができるとか地域の特性もある。向日市の特性も踏まえて、どんな形式がいいか一緒に考えていきたい。
委員	給食の方式について、給食に期待するものに温かい給食が一番に多いので、そうすると弁当方式だと運んで来ることからおかずは冷たいということになる。デリバリー方式の舞鶴市で試食したが、ごはんは温かかったがおかずは冷たいというほどではなかったが、今の気候ならどうか。望まれているのが温かい給食なので、弁当はどうかという気がする。他の方式について、センター・親子・自校、提供する時は同じ食缶なので、温かい状態で提供できる。狭い市域なので、センターであっても、親子であっても、自校であっても、それほど運ぶ時間差はないと思うので、大きな違いはその部分ではないと考えている。
委員長	弁当の場合、人数による。業者も人数が少ないと質を上げるのは難しくなる。向日市の場合、センターか親子か自校かは別として、小学校のような給食が良いと思われるか。
委員	PTA 代表です。視察は自校と親子に参加した。他の委員の意見と残量のことなど同じなので、今まで発言してない。京都市では、選択制の給食をされていると聞いているが、アンケートに答える時のニュアンスは、京都市のような感じで選んでおられるのではないか。食育の面だけでなく、福祉の面からの給食の方向へというのは、よくわかるし、そういう思いもあるが、8割の生徒が給食ではなくお弁当が良いとの思いがある。視察先でも、気になったのは担任や副担任が給食の配膳時間に連絡事項をされていて、先生の給食時間が短くなっていた。先生の負担が大きくなる可能性がある。生徒も給食が始まると、生徒のお昼休みがとれなくなるのではないか。8割の生徒のお弁当に対する思いをどう考えるかが大切である。視察先は施設的に恵まれていてリフトで運ばれていたが、向日市の中学校の中には、校舎の配置から、給食を運ぶのに、どこから運び入れたらスムーズにできるのか、不安なところもある。給食はすばらしいし、視察先も良かったが、このまま方式を決めていって良いのか、中学校の委員も不参加な中でどうかと思ったので、発言

	させてもらった。
委員長	今の中学校で、先生は自分で持って来られたお弁当を食べておられるのか。伝達事項はされているのか。
委員	弁当は自分で持って来られる先生もあるし、業者の弁当を頼まれる先生もある。伝達事項は基本的にはしないが、時のよってはあることもあるが、配膳時間がないので、時間的には余裕があると思う。
委員長	家庭の弁当が良い理由が、自分の好きな物を入れてもらえとか、その日の体調に合わせて量の調整できるからとか、弁当の方が好きだからとか、給食当番をしなくてよいからが多い。大学生もそうだが、女の子はダイエット志向がはじまるので、高校生になるとサイズが幼稚園の子のお弁当箱になり、おかず入れにごはんを入れ、ごはん入れにサラダ的なおかずを入れる子が多い。中学生の女子は生理もあり貧血の問題とか、便秘の問題とかもあり、将来の骨粗しょう症予防で骨密度を上げなくてはいけない、発達段階で重要な時期なので、栄養バランスが期待されている。きちっとした食事、食事を学ばせる機会が家庭科の中だけではできない。実際に食べて学ぶということも大事だと思う。
委員	アンケートをとった時に、向日市では今までから中学校ではお弁当なので、そう思っている子が多いということを担任の先生から聞いている。小学校の給食を提供する中で、家庭の貧困の問題が出ている。給食をおかわりもしてたくさん食べる子がいて、理由を聞くと朝ごはんを食べてなく、晩ごはんもあまり食べてないという。高学年になると恥ずかしいと思うのか、食べてると答える。朝食調べをしても、ほとんどの児童が食べてると答えるが、実際には見えないところも多い。中学生の弁当も、用意のできている家庭も多いが、少数派で、バランスが悪かったり、忘れたといって食べてなかったりする生徒もいると思う。そんな生徒が選択制の昼食になった時に、弁当を頼みたいが、理由を詮索されるので頼まないとか、友達が頼まないと頼まないとか、人数的に頼まない人が多いので、頼みにくく、実際の選択制では注文が少ないと聞いている。そうすると、給食を必要としている生徒も給食を選択できないということになってしまうので、少数派であっても、栄養の補給ができる、安心して中学校へ行ける様な昼食提供がしたいと思う。 アンケート結果は、京都の中学校給食の実施率が低いので、給食がないのが当たり前になっているので、子ども達がお弁当と思っている。全国的に見ると、中学校給食の実施率は上がっている。それが、貧困対策と食育の推進ということで始まっているので、正しく教えるなら不満は出ないと思う。3年間の生徒の体の発育や心の発達のことを考えると、安心した給食提供で同じ環境を作ることが大事と考える。

委員長	お弁当を注文すると弁当を作ってもらえない家庭と思われるので、注文しない生徒がいると他市で聞いている。 お弁当には良さがある。お弁当の日を作るという解決方法もあるし、学校行事の機会等もある。向日市独自のいい方策を考えてもらえばよい。
委員	弁当と選択できる弁当を選んだ子どもの思いについて、アンケートの理由を見るとめんどうだからとかが多い。家庭の弁当がいい理由では、自分の好きな物や食べる量を調整できるからが多い。中学校へ行くと、お弁当で給食当番もなく楽ができると思っている子が多いのかと思う。
委員	子どもが4人いるが、どの子もお弁当がいいと言う。給食は小学校のもので、中学校はお弁当というイメージがある。お弁当が良いというのは作ってきた方としては嬉しい。
委員長	子どもの弁当は、母親の役割として作ってきたし、コミュニケーションツールになるのはわかる。デリバリー方式で弁当に向かうのか、センター・親子・自校方式はいろいろあるが、食缶方式とするのか、給食提供の方向性を決めなくてはいけない。
委員	このあたりは、中学校の給食の実施率が低いから、中学に行くとお弁当が普通になっているが、今は中学の給食の実施率も上がり、あるのが普通の地域が増えている。子どもに聞くと、好き嫌いのある子はいやとか、6年生は中学でのお弁当を楽しみにしていたりする。これから給食を実施するならば、過渡期になる生徒については、いろいろな思いもあると思うが、スタートすると、他市でも順調に進んでいる。中学生になった、一度家庭からの弁当を経験すると、当番が面倒に感じ弁当が良いという意見になる。栄養士の立場で考えると、温かい、栄養バランスのとれた中学校給食を進めて、子どもたちの健全な体の成長を見守るというか、礎になればいいと思う。
委員長	全国で8割中学校給食が実施されていて、この辺の実施率が低い。中学校給食を実施するという事に対しては、みなさん反対がない。デリバリーも反対で、実施するのか、家庭の弁当かどちらかになる。家庭の弁当の良さをどこに残しながら、方式はどうであれ、温かい、栄養バランスのとれた、食育の教材となるような給食と提供するという方向性で、まとめて良いか。 自校方式か、親子方式か、センター方式かをここでは決めることができない。向日市の予算であったり、地域特性、これからの児童生徒の推移を踏まえて議論していかななくてはいけない。ここで、決められないと委員長として思うが、事務局はそれで良いか。 今日は、温かい、栄養バランスのとれた小学校のような食缶方式の給食を提供する方向で、今後進めていっていただくということで良いか。

委員	大きな方向性を決めていただいたが、今後実施方式について、現実として費用のこと、場所のこと、それに要する期間のことも含めて、次回までに事務局で取りまとめて報告してもらい、議論するという方向が良いと思う。
委員長	事務局はそれで、良いか。次回の会議までに、資料を作っていただきたいと思う。
事務局	次回までに、議論いただける資料を作成する。
委員長	その他、何かあれば。
委員	アンケート結果をホームページに掲載するのであれば、その他の記入内容の表の字体が小さく、見にくいので、もう少しわかりやすいような形に変えていただいた方が、市民のみなさんに見ていただく時に良いと思う。
事務局	ホームページに掲載し報告する予定なので、より見やすい形に修正して公開したい。
委員長	みなさんのご協力で、方向性を見出せたと思う。ありがとうございました。
	閉会